



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報



## 意識を喚起し 進んで行動を

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

### 職業奉仕米山月間

第661回 平成12年10月 4日(水)

#### 〔本日のプログラム〕

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. 点        | 鐘     |
| 2. 国        | 歌     |
| 3. ローター     | ソング   |
| 「我等の生業」     |       |
| 4. 「四つのテスト」 | 唱和    |
| 5. 食        | 事     |
| 6. 会長の      | 時間    |
| 7. 幹事       | 報告    |
| 8. 委員会      | 報告    |
| 9. 10月      | セレモニー |
| 10. 点       | 鐘     |

- 次回予告
- ★10月11日(水)  
夜間例会  
会員卓話  
後藤明夫君  
家庭集会
- ★10月18日(水)  
クラブ創立記念  
プログラム  
理事・役員会

#### 佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	梶田與之助
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	吉田康一郎
事務局	宮崎部佐土原町大字下那阿3887-17	幹事	宮原 建樹
	☎880-0212	会計	後藤 明夫
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員	池田 仁志

## 第660回例会記録

(2000. 9. 27)

### ☆会長の時間

会長 梶田 與之助 君

皆様 今日は。

本日は第660回の例会です。

先週の例会で新世代委員長の恒吉君よりライラ準備委員の組織図の案が提示されましたが、ライラ研修会委員長に垂水君という案を本人が固辞されましたので、再度検討をお願いします。

(再検討の結果、委員長一吉田康一郎君  
副委員長一恒吉正志君兼務…と決定)

また、地区ライラ委員の伊東忠寛君から、「ライラのテーマを早めに決めておくべき」という意見を受けたので、後ほどクラブフォーラムの中で、皆様のアイデアをお聞かせ頂きたいと思います。

ガバナー公式訪問の際に安満ガバナーより、「『切れた若者。親が見えない、見せてない、学校が見えない』こういうテーマも現代にマッチしているのではないか」と助言をいただきましたので、参考までに申し上げておきます。

ところで、宮崎経済新聞の評論で「犯罪の拡大連鎖を止める立場の人へ」という記事が載っておりましたので、ご紹介申し上げます。以下抜粋。

「どうして社会秩序の崩壊に歯止めがかからないのだろうか。子殺しやバラバラ殺人など、かつては狂人扱いされた犯罪も今では日常茶飯事になっている。異常な状態が長く続くと慢性病になってしまうのは社会も同じ。我々はすでに健康な状態を思い出すことすらできない。オウム、ライフスペース、加江田塾とっ反

社会的集団にも慣れ、保険金殺人にも驚かず、いじめ自殺や学級崩壊は周知の事実である。テレビドラマでは、たとえNHKであっても判でおしたように少女が妊娠してしまう。これでは倫理がうしなわれるのも当然。どんな野蛮で薄汚い行為でも毎日繰り返しみせているうちに、『どこにでもあること。誰でもすること。恥ずかしくないこと。』と錯覚し、神経が麻痺してしまうのである。わが子に保険金をかけて毒殺するなど、普通なら思いつかない。前例があればこそ『自分だけじゃない』と簡単に実行してしまうのである。そしてこれが再び前例になるという悪循環を呼んで犯罪はさらに複合化しながらエスカレートを続けている。もはや家庭とか学校といった一部分の荒廃ではなく日本全体という大きな器で考えなくてはならない問題だ。自分だけは大丈夫というわけにはいかない。これほど腐敗した世の中に暮らし、それでも平和だと感じるものが、既に倫理を失った証拠である。

ここで一つ不思議なことがある。今の狂った世の中を改革できる立場にある人間がどこかにいる筈である。その人間はなぜ動かないのか。また何のためにその地位にいるのか。おそらく、その人間が最大の犯罪者である。高いポジションを与えられて高い給料をもらって、乱れゆく社会を傍観している。その立派な肩書きは何のためなのだ。国政、県政、市政それぞれのレベルにおいてしかるべき地位にある人間が本気で腰を上げれば、歯止めをかけることは絶対に可能なのである。恐喝する人もいれば、殺人を犯すひともいる。その行為を責める前に『腐った社会で育てた責任』を問いたい。『乱

れた社会を立て直そうとしない責任』を追及したい。この先、犯罪の拡大連鎖がどこまで続くか分からないが、犯罪の凶悪化や低年齢化は10年以上も前から叫ばれていることである。その間、傾向を分析するだけで、何も解決しようとしなかった。それで自分の仕事が果たせていると思うのであれば、やはり陰の犯罪者である。」

私も同感です。

## ☆出席報告

委員長代理 郡 司 武 俊 君

会 員 数	28名
例 会 出 席 者	19名
出 席 率	68%
メークアップ者数	3名
修 正 出 席 率	79%
欠 席 者 名	加藤、神宮寺、藤田、赤木太田

## ☆幹事報告

幹事代理 田 村 勝 二 君

### 1. 例会変更通知

10月5日(木)は「職場訪問」の為、

時間 12:30~

場所 橋詰家具(株)会館 に変更

10月12日(木)は「がけ公式訪問」の

ため、場所 大丸7F に変更

10月19日(木)は「早朝例会」の為、

時間 6:00~

場所 沖水川河川敷 に変更  
都城中央RC

高鍋RC

西都RC 両クラブより10月の例会案内が来ております。御用の方は事務所に問い合わせ下さい。

## ☆青少年問題に思う

徳 丸 彰 一 君

近年、青少年の非行問題が、マスメディアに時々取りざたされていますが、私はその度に卵を思い出す。

それは、一番中心の黄色身を…青少年とすれば、自身が親であり、学校の先生方達で、一番外側の殻が地域社会の人達であろう。この三つがしっかり手を結びあって始めて、丈夫な雛が生まれ、育って行くのである。

しかし、この三つが現代、本当にじっくりいっているか…疑問に思うのである。一地域社会人のロータリアンとして、大いに反省して、来たる21世紀に向けて、青少年の健全育成のために、殻はどうあるべきか!!

じっくり、考え直す事にしたいと思っている。

＊ 悪夢のトイレ ＊  
森 詠 (塚 耕のつりより)

あれは北アフリカの旅からの帰りだった。パリのシャルル・ドゴール空港についた時、突然、左の下腹がごろごろ鳴りだし、差し込むように痛みだした。アルジェリアの片田舎で、食べたものにあたったらしい。

痛む下腹を抱えながら、大きな荷物を片手に、広くて近代的な空港の中をうろうろし、必死でトイレを探した。

しかし、肝心な時に見つからないのがトイレである。

空港は大勢の客でごった返して、なかなかトイレが見つからない。人を掻き分け、やっとの思いで、カウンターに辿り着き、空港の女性職員に、トイレはどこかときくが、女性はこちらを見る間もなく、ボールペンでしかるべき方角を指差すだけ。

ぼくは脂汗をかきながら、重いトランクを押し、人込みを掻き分け、職員が指差した方角に突進する。ようやく団体客の一団を中央突破して、階段付近に辿り着けば、あった！まぎれもないトイレのマーク。

僕は漏れそうになるのを、歯を食いしばり、扉に体当たりして、トイレに駆け込んだ。すぐ目に入った便器に座り、ドアを閉めてズボンを下ろした。

ほっとした解放感のすばらしさは、読者諸氏にも、きっと経験があるだろう。

やれやれと一安心して、妙な雰囲気気がついた。ドアの外で声高な女の話し声が聞こえる。最初、掃除のおばさんでもいるのだろうと思ったが、つぎつぎ

女たちが入ってくる、そのうち、トイレの中が女たちでいっぱいになり、僕は陥った事態を認識した。

ドアの外では、孤立無援の僕の気持ちを知ってか知らないでか、どンドンと叩いている。僕はその度に叩き返し、知らぬ顔を決めた。彼女たちが隣やそのまた隣のボックスで用を足して、早く出ていってくれるのを祈るのみだった。

だが、期待は常に裏切られるもの。女たちは用を済ますと、男の噂話やのろけ話をしながら、鏡に向かって念入りに化粧を直しはじめた、らしい。直接は見えないのだが、雰囲気ですうと分かる。

時計を見ると、次に乗る便の時刻が刻々と迫っている。天井のスピーカーから、とうとう搭乗便の最終案内が告げられた。僕は意を決してドアを開けて外に出た。

その瞬間、時間が停止した。鏡に向かって口紅を直していた黒人の女性も、金髪を梳いていた白人の女性も手を止めて凍り付いた。全員が口をあぐりと開けてぼくを凝視していた。

ぼくは何食わぬ顔で、重いトランクを押し「バルドン」といいながら、彼女たちの間をすり抜けた。

トイレの扉を押して出た後、扉越しにどっと黄色い声の哄笑が上がるのが聞こえた。ぼくは一目散に遁走した。

ぼくはいまでも下腹が痛むと、思い出して冷汗をかく。

人にいえない悪夢だ。

小説現代「誰にも言えなかった話」